

体験教育

創立100周年を

迎えるにあたって

理事長 吉田 元一



今年はいよいよ明星学苑創立100周年の年です。

さまざまな記念事業が企画されていますが、まず100周年記念ロゴの作品募集が行われ、最優秀作品に明星中学校1年(当時)の森雄之介さんの作品が選ばれ、この記念ロゴである「**100**」が活躍する年となります。

1923年(大正12年)に明星実務学校として創設しその後、明星中学校へ改組しました。1948年(昭和23年)には明星高等学校を開校し、戦後の住宅難の中、明星中学校の寄宿舎に住まわれていた本学苑の先生方のお子様たちのための明星幼稚園の開園、そして明星小学校の開校と続きました。創立40周年記念事業の一環として1964年(昭和39年)に明星大学を開学しました。この間、府中から約5万4千人、大学からは約8万2千人の卒業生を送り出し、社会の発展に貢献して参りました。

この100年の歴史は明星学苑にとって大切なことと言ってもありませんが、それ以上にこれから先、100年続く学校になるために何を

為すべきかを考え実行していくことが、より重要なことだと思っております。その為に次の100年を見据えた「Next100ビジョン」を策定しました。それは「自ら変革し

続ける人間的な世界を謳歌する人間的な世界を輩出する学苑」です。現代の社会は変化の激しい時代にあります。AI・ICTの技術革新によるデジタルトランスフォーメーション、超スマート社会、地球環境問題など地球規模の変動に直面しています。その中でどのような時代が来ても、自立し社会で活躍し社会に貢献できる力を養うのが明星教育の使命です。「世界に貢献する人の育成」「体験教育」「手塩にかける教育」「健康、真面目、努力」など明星教育の原点をしつかり踏まえ、これからの社会の変化の中で、時代の要請に応える多様な教育テーマに取り組んでいきます。

すでに明星中学校・高等学校ではSDGs教育に積極的に取り組んでいます。生徒達が具体的社会課題の解決の為、社会への視野を広げ、自ら考え、具体的行動を起こすことで成果を出し、人間としても成長して

いくことを目指しています。ジェンダー問題を検討した生徒達のグループはスウェーデン大使にインタビューを実施し、それがきっかけとなりスウェーデン大使が府中校を訪問され、生徒達がSDGsの取り組みを英語でプレゼンテーションをしました。その他府中市職員とSDGsの理解を深める為のワークショップを実施したりと、今までになく生徒達に積極性がでてきました。

明星小学校でも探究学習に力を入れ「ゼミ活動」形式で生徒達がそれぞれのテーマを決め、問題を掘り下げ、成果をプレゼンテーションとして発表するプログラムを実施しています。この活動は小学校・中学校の接続にも展開し、SDGs教育につなげていきます。

明星幼稚園でも「めばえの時間」で探究活動を始めました。「伝える力」「科学の心」「豊かな感性」を育むことに力を入れ、JAXA(宇宙航空研究開発機構)との連携活動、「光と影で遊ぶ」アートワークショップ、若手ミュージカル俳優に憧れるミニコンサートなど、多彩なプログラムで園児達の成長に取り組んでいます。

このように、明星学苑はこの100周年をスタート台として新たな時代を謳歌し次世代を担う人の育成に力を注いでいきます。これからも皆様の応援をよろしくお願い致します。

編集/体験教育編集委員会
発行/学校法人 明星学苑
東京都府中市栄町一丁目
四〇四(二三六八五二二)
制作/信濃印刷(株)

目次

創立100周年を迎えるにあたって

理事長 吉田 元一

幼稚園

「大人の役割」

明星幼稚園 園長 渡邊 智恵子

「卒園」二進級おめでとうございます

副園長 中江 正司

1年間でみんなのおおきくなりました!!

園長補佐 河浦 晃子

「1ねんを振り返って」

年長組

年中組

年少組

小学校

スカッとさわやかに!

「考えるわくわく感を体験しよう!」

明星小学校 校長 細水 保宏

六年生 卒業する私たち学級紹介

松組 「六松日記」

竹組 「協力できるクラス」

梅組 「短所を長所に変えられるクラス」

音楽祭 「響き合う星たち」

明星祭 2022

中学高等学校

百周年! 明星に学ぶ意義

明星中学校・高等学校 校長 福本 真也

卒業生へのメッセージ 高校3年生へ

「旬の思い出」

中高一貫1年3組 高島郁菜子

「健康のタイムカプセル」

中高一貫1年1組 奥村 愛美

「全国大会への決意」

中高一貫2年1組 渡辺 紗礼

研修旅行に参加して

高校2年2組 永田 友恒

研修旅行の思い出

高校2年3組 町田 さら

「関東 全国大会に向けて」

高校2年5組 坂本 幸哉

高校スキー部の活躍

軽音楽部の活躍

100周年エンブレムについて

高校3年4組 野口 華

1

2

2

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

16

16

「大人の役割」

園長 渡邊 智恵子



毎日のように園庭や園舎内、さまざまな場面で、元気な明星幼稚園の子どもの声が響き渡り、今年度も実り多い一年が過ぎました。これもひとえに保護者の皆様のご理解とご協力あつてのことと、心より感謝申し上げます。

さて、幼児期のこうした一年間、あるいは入園から卒園までの二年、もしくは三年間の成長は目を見張るものがあります。

子どもは誕生してまもなく、さまざまなことを見たり、触れたりして探索行動を始めます。そうしてさまざまな感覚、感情が育っていきます。さまざまなことに興味を持ち、失敗や、成功を経験しながら、自ら「生きる力」を身に付けていきます。言い換えればこの「生きる力」のパロメーターは子ども時代に「自らどれだけ考えたか」だと私は考えます。

人間、まして子どもですから失敗もします。大事なものはその失敗が取り返しのつかないことにならない限り「貴重な体験」といえることです。他人に迷惑をかけるない事、生命に危険が及ばないことが大前提です。

大人の私たちが出来る事は、子ども自身が考える機会（チャンス）を逃さないことです。

そこに生命に及ぶ重大な危険がないかどうかを見守り、他者への配慮が存在するかをアドバイスする必要があります。

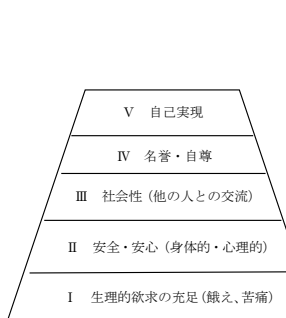


図1 マズローの欲求段階説

とで家族や幼稚園という社会の一員としての意識が芽生え、「お友だちや先生と関わりたい」という欲求が生まれ、それが「クラス（家族）の一員として行動し、成果を出したい」と心で成長していきます。

米国の心理学者アブラハム・マズローが唱えた「欲求段階説」（図1参照）を例に、幼児期に当てはめて考えることができます。

大人は最低限の「生理的欲求の充足（飢え、苦痛）」「安全・安心（身体的・心理的）」を子どもに確実に保障することで、子どもたちは社会性を育み、さらには認められ、誉めてもらいたいという欲求が現れ、その先には「自己実現の欲求」もあるべき自分になりた

い、と段階を経て行きます。

幼稚園を卒園し、上級学校へ進学してなお、自己を実現していく「心の芯」の強さを育み、ひとつ大きな社会へと送り出す。これが私たちの使命だと考えます。

結びにお子様のご進級、ご卒園おめでとうございませう。これからの健やかなご成長を心よりお祈り申し上げます。



四月からは一学年ずつ進級され、年長のお子様はいよいよピカピカの一年生です。ますますのご活躍をお祈りしております。

「卒園」「進級おめでとう」です

副園長 中江 正司

桜のつばみも膨らんで、春の訪れを告げているようです。保護者の皆さま、お子様のご卒園、ご進級おめでとうございませう。

ウィズコロナの中、今年度は多くの行事を保護者の皆さまのご理解ご協力の下、ほぼ予定通り実施することができました。誠にありがとうございます。

どの行事に向けても、明星幼稚園の保護者の皆さまは、子どもたちの笑顔の思い浮かべ、準備を進めていらつしやいました。教育活動のほとんどは教員のみならず、ご家庭と両輪になって進めていくことで大きな成果が得られるのだと、今更ながら実感することができました。

思い出がぎゅつとつまったこの一年間、一人ひとりのお子様の可愛らしい笑顔、たくましい表情より、一層のご成長と充実感が窺えます。



四月からは一学年ずつ進級され、年長のお子様はいよいよピカピカの一年生です。ますますのご活躍をお祈りしております。

寒さもやわらぐなか、春の温かな風が類なでる季節。進級、卒園の時期となりました。ご卒園、ご進級おめでとうございませう。

保護者の皆様には3年目となったコロナ禍のなかで園へのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。期待いっぱい嬉し気持ちとちよつぱり心配な気持ちの両方を抱えてのスタートだった4月。特に新入園児の皆さんの多くは保護者の方との離れての生活への第一歩に戸惑いもあったことと思います。当初は、なかなかお部屋に入らず困つたお顔、涙があふれたお顔と色々な表情が日々見られました。

園生活が進んでいく中でクラスやお友だちとの生活を生きていくと過していく様子がうかがえるようになってくると本当に嬉しく感じました。

クラスごとに行う劇の発表会では、楽しそうに堂々と表現する姿に胸が熱くなりました。3学期には、制服が小さくなり、カラー帽子が色あせてきたこととひきかえに大きな頼もしさを手に入れたよう

にも見えます。この一年で体も心も大きく成長したのですね。

次のステップでもさらに輝く笑顔が見られるよう期待しております。

園長補佐 河浦 晃子



みかんを収穫したよ!
お部屋でたべようね!



年長組

正しい姿勢で"みなしずか"



園庭ランチ! みんなで
食べるとおいしいね!



朝は元気に体操をしています!



光の実験!
不思議がいっぱいだね!



倒れないよう慎重に〜





早く芽がでますように～

みてみて！こんな高い所まで登れるようになったよ！

年中組



勤労感謝の日では、いつも幼稚園の為に働いてくれる方にお花をプレゼントしました！



幼稚園のみかんの木に実がなっていたよ！



作ったお米でおにぎりを作りました！大きなお口でいただきます！

稲の脱穀に挑戦中！



お部屋の壁にライトを当てて影絵で遊びました！



発表会の練習ではみんなで力を合わせて頑張りました！



副園長先生が焼き芋を焼いてくれました！おいしかったよ！





ちゅーりっぷの球根を
一人一つ植えました。

年少組

学苑内散歩に行った
よ！ここで一休み～



ここにこの日の
活動でお兄さん
お姉さんにたく
さん遊んでもら
いました！



中高校舎にある大き
なクリスマスツリー
を見に行きました！



みんなでクリスマ
スツリーの飾り付
けをしたよ！



楽器の使い方を学
んだあとはみんな
で演奏会！



年長さんが運動会の鳴子をお部
屋まで見せに来てくれました。



さつまいもの収穫！
どこに付いているのかな？



初めての絵の具遊び！綺麗
な模様ができるかな～？



スカッとさわやかに！

《考えるわくわく感を

体験しよう！》

明星小学校校長 細水保宏

「何にしようかな。」

頭の先から尾までしつかりあんが詰まった鯛焼きが十円。四分の一のジャガイモのポテトが二個五円。小学校一、二年生の頃、姉と一緒に親戚の家に書道を教えてもらいに通っていた男の子がいた。バスに乗らずに三十分近く歩くと子ども料金の十五円がそれぞれ手に入ることを覚えて姉弟は、書道に行くのがより一層楽しくなった。

近くの駄菓子屋へ寄ると、棒付きのカステラ、おまけ付きの飴、ガム、ジュースなど魅力的なお菓子の宝物。歩いて汗をかいて手に入れた十五円の使い方に迷う。歩こうか、どんな使い方をしようか迷い、自分で判断、決定する。それが楽しかった。虫が大好きだったその男の子は、昆虫網が欲しかったがお小遣いでは容易に手に入れることができなかった。そこで、自分で網を作ろうと考えた。まずは針金にビニール袋を付

けて試作。一回振っただけで分解、失敗。空気が通らないとだめなことを手に入れる。次に、針金を組んで袋の代わりに。すると、振って捕まえた昆虫が打撲で瀕死の重傷となることを知り、失敗、断念。

そこで、棒の先端に丸く針金を巻き、その丸の中に蜘蛛の巣ごと二、三匹蜘蛛を捕まえて入れ、一晚棒を立てておく。すると、次の日には丸い針金の中に立派な蜘蛛の巣ができる。それを網代わりに使うと、トンボ、蟬などがおもしろいように採れた。残念ながら蝶だけは無理だった。

どうやったら虫を捕ることができるか、考えることが楽しかった。

その男の子が三、四年生の頃であったであろうか。缶蹴りや野球、メンコやコマなどで、近所の友達と遊び回っていた。その頃は、近くの工場の午後四時のサイレンが遊びから家に帰る合図であった。

あるとき、サイレンを聞いて帰宅しようとしたところ、セーターをどこかに忘れてきたことに気付いた。セーターを探して、遊んだ場所四、五カ所を泣きながら必死で探し回ったことを今でも鮮明に覚えている。物が豊かに手に入らなかった時代だからこそ、物を大切にする習慣が付いたと言える。

その男の子が、一度だけ両親と友達の家に謝りに行ったことがあった。友達の背中でおんぶされていたときに、その上に一人の友達に乗ってきて、一番下の友達の足の骨が折れたのである。明らかに最後に乗ってきた友達が悪いはずなのに、両親と一緒に謝りに行ったのである。両親の頭を下げる姿を見て、どんなことでも人を傷つけてはいけないことを強く学んだ。

その男の子は計算が得意で算数の時間はいつもヒーローであった。なぜなら、担任の先生が授業の最後に計算問題を出し、早くできた人から外に出て遊んでよいことにしていたからである。「ヤツチン、がんばってね！」クラスのみんながその男の子を応援してくれていた。というのは、休み時間より前にクラスの誰かが早く外に出れば、校庭にドッチボールやハンドベースボールの陣地を確保できるからであった。

これらは、その男の子が小学校時代に体験した、今から五十年以上前の話である。

その男の子が、いつの間にか教師になっていた。

本来、日常生活でも学校生活でも学びの場は、判断したり考えたりする連続であり、わくわくして楽しいはずである。ところが、情報や物が

すぐに手に入る便利な社会となり、自分自身で判断したり考えたりする場が少なくなり、わくわくする場も減った気がしてならない。

しかし、その教師は、子どもは遊びの天才であり、おもしろいものの匂いを嗅ぎつける天性のものを持っていて、判断し考える場にさえ出会えばそのわくわく感を十分味わうことができると思っているのである。なぜなら、小学校時代に自分自身で体験してきたから。だからこそ、うまくいかない体験や考えるわくわく感を体験して欲しいと考えている。

6年生の皆さん。

《卒業おめでとうございます。

「スカッとさわやかに！」。

皆さんと知り合ったときから先生の大好きなこの言葉をいつも唱えてきました。何事にも全力で取り組む人、自分らしさを持った、人の笑顔を見るのが好きな人、という「さわやかで魅力ある人」になってもいいと思います。これからです。これからも、是非、『さわやか探しの旅』を続けていってください。

新しい旅が始まります。小学校で体験し、培ってきた心と力で大きく羽ばたいてください。応援しています。

もちろん、合い言葉は、
「スカッとさわやかに！」。



卒業する私たち学級紹介

6年生



松組

「六松日記」



私たち六年松組は、元気で明るく、欠席が少ない友達思いのクラスです。誰かが困っていたら、優しく声をかけてあげられる人ばかりで、授業中は騒がしい時もあるけれど、けじめがついていて協力できるクラスです。時にはケンカし、時に怒られ、それでも仲良くしていきける人たちが

集まっています。

そして、これまでの行事すべて、一人ひとりの健康管理の末、全員出席で終えられています。

小学校生活最後の運動会。三位で終わりましたが、全力を出し切り、心をつにじた結果だと思っています。高学年として、下学年を引っ張っていくこともできました。

明星祭では、春から準備をしてきたお菓子販売をし、商品売ることにの大切さを学びました。販売に向けて、たくさん準備をしてきたおかげで、多くのお客様が来てくれて嬉しかったです。

三年ぶりの宿泊行事の修学旅行。みんなが楽しみにしていて、全員参加で終えることができました。この修学旅行では、班別行動があり、今までには味わえない自分たちだけで行動することの楽しさと大変さを実感できました。

六年松組は、二年間三十名同じメンバーで過ごしてきました。出席番号三十番のマスコットキャラクターのメンタコと共に過ごし、一緒に心も体も成長してきました。

コロナの影響で、あまり行事を行うことができませんでしたが、その他の日々の生活でもたくさんの思い出があります。私たちは、六年生になり、いろいろな経験をする中で成

長することができました。

これまで六年間支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。中学生になっても、明星小学校で学んだことを忘れずに、健康・真面目・努力の気持ちを忘れず生活していきたいです。

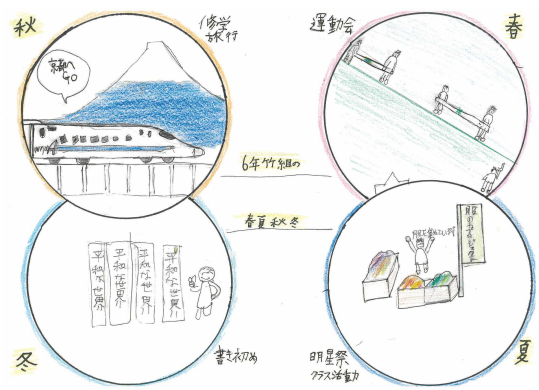
竹組

「協力できるクラス」

二〇二二年四月七日に私たち竹組は、六年生としての学校生活をスタートさせました。そしてその二日後の入学式で、一人の六年生が二人の一年生の手を引き、講堂へ誘導しました。最高学年を実感した瞬間です。私たち六年竹組は、明るくて、協力ができるクラスです。運動会の時は、ハリケーンで、練習の時からチームワークが良く、本番では、みんなで声をかけ合い、一位を勝ち取ることができました。そして、竹組が優勝することができました。

くぬぎの時間では、ユニクロの「届けよう、服のチカラ プロジェクト」に参加して、なかなかやる事が決まらないこともあったけれど、明星祭では、みんなががんばって、たくさんさんの服を集め、難民の方に送ることができました。うまく進まないこ

とがあっても話し合いを続けて、みんな協力しながら、五年生からの二年間を私たちは過ごしてきました。私たちの学年は、三年生の終わりにから新型コロナウイルスが流行し始め、その後の二年間は宿泊学習に行けませんでしたが。校外学習も行くことができませんでした。しかし、六年生でやっと、六月に鎌倉へ校外学習に行くことができました。班別行動で、みんなで話し合って行き先を決めたり電車に乗ったりして、見学をしたり、思い出を作ることができました。秋には京都へ二泊三日の修学旅行に行くことができました。その中の一日は、班ごとでタクシーに



乗り、見学する場所や時間も自分たちで考えました。

私たち六年竹組は、みんな個性的で、創造力があるクラスです。絵を描くことが好きな人、本を読むことが好きな人、ゲームが好きな人、電車が好きな人……。そのみんなが協力したから、今までいろいろなことが成功できたのだと思います。

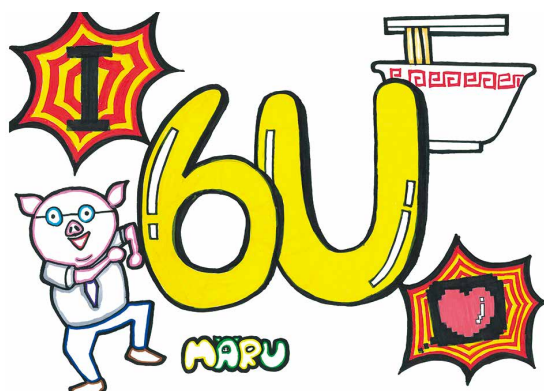
もうすぐ卒業して中学生になりますが、仲間と過ごした明星小学校での思い出を大切にしたいと思います。この六年間、私たちをいつも支えて下さった保護者の方、やさしく見守って下さった先生方、本当にありがとうございました。

梅組

「短所を長所に変えられるクラス」

六年梅組は、正直に言うところ、いろいろと問題を起こせばかりのクラスだったと思います。ことあるごとに授業が止まったり、何かが起こって先生に間に入ってもらったりと、毎日騒がしいクラスでした。

だけど、その騒がしさが明るさとなり、みんなで協力して取り組む場面では、「学校ナンバーワン」と言っているほどの、とびっきりの笑顔と団結力を見せることができます。



特にこのことを感じたのは、くぬぎの時間に行った、SDGに關する動画を制作している時のことでした。動画の撮影をはじめた頃は、初めてのことだらけで、みんなの心がすれ違い、把握できないことも多く出てしまったので、撮影をうまく進めることができませんでした。しかし、少しずつ慣れてくると、それぞれ自分の長所をうまく生かしていくことができ、すてきな動画を作ろうと、一人ひとり努力をしていきました。

あるシーンを撮影している時のことでした。カメラに出演者以外の人が入り込んでしまったことがありま

した。それに対し、担当の子が少し厳しい言い方をしていました。五年生の頃の私たちだったら、その厳しく注意する方に同調し、一緒になって厳しい言い方をしてしまったと思います。ですが、聞こえてきた言葉は、同調のする言葉ではなく、その厳しい言い方への指摘の言葉でした。その言葉を聞いて、なんだかんだ言って、友達思いのいいクラスだなと思いました。厳しい言い方をしてしまった友だちも、本当はクラス思いの優しい子だとわかり合っているのです、すぐに話し合いをして改善案を出すことができました。このようなことをきっかけにして、六年梅組はより仲を深めていくことができましたのです。

たしかに問題はかり起こるクラスだけど、その分何度も話し合う時間があったり、時にはけんかをしたりしながら、お互いのことを理解し合い、ありのままの自分で相手のことを受け入れられるクラスの雰囲気を作ることができました。

六年梅組は、毎日笑顔で、明星の一番星として、それぞれが離れ離れになっても、一人ひとりが輝き続けることができます。そんな輝きをもった人たちの集まる、個性的で素敵なクラスです。

全校合唱
「星のみちしるべ」



二〇二〇年三月。緊急事態宣言が出され、この年に行う予定だった音楽会が突然中止となりました。それまでは、歌や合奏などの演奏を行うことが当たり前でしたが、新年度を迎えても歌声が校舎から聴こえることのない日々が続きました。少しずつ、できることから始めていき、現在、音楽の授業ではマスクをしたままの歌唱活動、鍵盤ハーモニカの代わりにミニキーボードや木琴などの器楽活動を行っています。

音楽会
「響き合う星たち」



和太鼓クラブ
「明星太鼓 2022」



昨年度は、二学年ずつ鑑賞しあう音楽会を実施し、保護者の方へは、動画配信を行いました。今年度こそ、子ども達の生演奏を聴いていただけるように、各クラスの演奏内容を工夫し、今回の音楽会を行うことができました。

3年生
様々な楽器を演奏



1年生
はじめての音楽会



2年生
全員が鍵盤にチャレンジ

4年生
初めての二部合唱



6年生
一人ひとりが編曲・演奏に
チャレンジ



5年生
互いの音色を聴きながら



児童鑑賞会では、全校が一堂に集い、久しぶりの全校合唱「星のみちしるべ」に始まり、和太鼓クラブ、各学級の演奏を行いました。大きな舞台上に上がり、緊張した面持ちでしたが、友だちと心を一つに、一生懸命演奏する姿が見られました。鑑賞する子ども達も、上級生の演奏に憧れる一年生や、下学年の演奏を温かいまなざしで見守る上級生と、会場が一体となった、素敵な音楽会となりました。翌日の保護者向けの音楽会は、三部制とし鑑賞していただきました。多くの保護者の方から、「子ども達からパワーをもらいました。」「音楽のすばらしさを改めて感じました。」と、嬉しい感想をいただきました。行事が一つ終わるたびに、子ども達の心は大きくたくましく成長していきます。音楽を通して、友だちのすばらしさ、合わせる楽しさをこれからも感じてもらえることを願っています。

(文責 音楽科)



明星祭 2022

今年度の明星祭は、九月十七日(土)、十八日(日)の二日間で開催することができました。

一日目は、三年ぶりに全児童が講堂に集まりステージ発表を鑑賞しました。初めての試みとなるレシテーションコンテストと三年生の劇発表を間近で見ることができ、発表児童にとっても鑑賞児童にとっても心に残る時間となりました。

二日目は、幼稚園、中高とも同時開催し、学苑内を自由に出入りしながらお祭り気分を味わうことができました。小学校では、教員による、お楽しみくじ、輪投げ、ボウリング、スーパースポーツ、スーパースポーツのブースを開きました。また、PTAさんによる、子どもバザー、ゲームコーナー(モンスター射的、モンスタージェンガ、モンスターボウリング)、ガラポン、割り箸鉄砲など、工夫を凝らした催しも大盛況でした。

多くの保護者の皆様にお手伝い、ご協力いただいたことにより、子どもたちは楽しい二日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

(文責 明星祭担当)



「百周年！ 明星に学ぶ意義」

明星中学校・高等学校

校長 福本 眞也



一九二三年に産声を上げた明星は百年という時の流れの中で確実にその足跡を刻み歴史と伝統を築いてきました。そして、児玉九十先生の教育観は特に「凝念」と「体験教育」において脈々と受け継がれています。

この百年、日本は大正から昭和へと進み、太平洋戦争の敗戦を挟んで、昭和から平成、そして令和へと時代が変わってきました。明星は、「変わる明星」と「変わらない明星」の両方を大切にし、時代の流れの中で常に世の中で必要とされる人材の育成を目指してきました。児玉先生が大切にされた「体験教育」は今や全国の学校で「探究的な学習」として普及し、明星は先進校として注目されています。明星では、中学においても、高校においても、「体験教育（探究学習）」は事前、本番、事後と体系化され、生徒諸君の「目に見えない学力」の養成及び「目に見える学力」の育成に役立っています。生徒諸君の課題発見力、課題解決力、企画力、プレゼンテーション力、協働する力などの向上に顕著に表れており、講演やイベントの後に積極的な手をあげて質問する姿や、明星祭の展示でSDGs活動の説明をしてくれる生徒の存在をとっても嬉しく思います。

児玉九十先生は明星の教育目標を「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」と

されました。世界を広く見聞され、当時の日本と世界の情勢を肌で感じられた児玉先生だからこそ、教育こそが日本の繁栄、世界の平和と共存になくてはならないものだと感じられたのだと推察します。

昨今、新型コロナウイルス感染症の蔓延、ロシアのウクライナ侵攻、急激な物価高、貧困問題、教育格差、人種差別、環境問題、大災害の頻発等々、私たちは多くの課題に直面しています。生徒諸君は将来これらの課題を解決していくことを歴史から求められています。明星で学ぶということは、そのことを意識することです。視野を広くし、様々なことを学んで成長し、世界に貢献する人になってくれることを切に願います。

最後に、卒業生諸君、卒業おめでとう！正門にある銅像、二宮尊徳の言葉を卒業生の皆さんに饒として贈ります。

「我が道は至誠と実行のみ。故に才智、弁舌を尊ばず。至誠と実行を尊ぶなり。凡そ世の中は智あるも学あるも、至誠と実行とにあらざれば、事はならぬものと知るべし。」

心の教育と体験教育を明星教育の根幹に据えられた創立者児玉九十先生が府中学校キャンパスに二宮尊徳の像を置かれた意味をかみしめ、創立百周年の卒業生であることを誇りに、これからの人生を有意義に生きて下さい。



中学三年 学年主任 荻野 光康

コロナの影響のため入学式ができず、皆の顔を初めて見る事ができたのがオンライン授業の説明会。慣れない授業ばかりでしたが、ICT機器を使いこなす姿に驚きました。ようやく登校できるようになりましたが、予定していた行事がことごとく中止となり、なかなか中学校の楽しさを感じさせることができず、やりきれない気持ちでいっぱいでした。3年生になって後輩に慕われている様子や体育祭、明星祭などの行事でとても成長している姿を見て感動。初めてできた宿泊行事では日々成長していく姿にまたまた感動。成長している皆さんの姿に救わ

れ、この3年間に感謝の気持ちがやみません。最後に、「七転び八起き」という私が一番好きな言葉を送ります。ハートグローバルでも学んだ「Yes, and」。ネガティブではなくポジティブに。何度失敗しても最後に成功すれば良いのです。成功のための失敗を繰り返して、高校3年間も成長した姿を見せてください。

中学三年一組 担任 平山由紀子

ご卒業おめでとうございます。これまでと変わらずに自分の心に正直に、そして周りの人も大切に、興味関心のある学びをさらに深めていくよう期待しています。

中学三年二組 担任 阪上 龍也

卒業おめでとうございます。将来、仲間と切磋琢磨し夢の実現に向けて成長していくことを願っています。新しい環境でも人間関係を大切に前進して行ってください。

中学三年三組 担任 岩崎このみ

卒業おめでとうございます。これまで以上にいろいろな人々と出会うことでしょう。どんな出会いも一つとして無駄なものはありません。

「人」を大切にできる、そんな人になってください。

中学三年四組 担任 新井 貴士

卒業はゴールではなく節目です。4月には新しいスタートを迎えます。皆さんの可能性は無限大です。伸びしろがある皆さんは、高校でどんな成長を見せてくれるのか？これからの成長に期待しています。3年後の目標達成を目指して、高校でも大きく羽ばたいてください。卒業おめでとうございます。

中学三年 学年担任 梅田 竜吾

卒業おめでとうございます。健康・真面目・努力の3年間で培った力は、あなたの未来を切り開く礎となるはず。私たちが費やした努力だけの価値がある（モリヤック）

中学三年 学年担任 沓沢 佳祐

卒業おめでとうございます。高校の3年間はこれからの人生でも忘れられない時間になるはずです。皆さんの活躍を願っております。

中学三年 学年担任 黒川 愛子

卒業おめでとうございます。妊娠期間中は、皆さんの優しさに触れ、幸せを感じる毎日でした。ありがとう。「勉強しなさい！」と言われた日々。10年後は言ってくれる人はいません。自分の足で前に進む教養力、そして行動力をつけましょう。皆さんの幸せを願っています。

中学三年 学年担任 宮崎 修平

みんなと共に成長できた3年間、本当楽しかった！これから自分の道を見つけて、自分の人生を自分の力で切り拓いていってください。みんながこれからどんな成長をしていくか楽しみにしています。



青春は密

高校三年 本科主任 飯島 崇史

あつという間の3年間でした。思えば、コロナ禍の影響を甚大に受け、入学式もできない中、登校した翌日からデバイスを渡してオンライン授業。コロナの「波」が静まったかと思えば、次の「波」が来る繰り返し。半分オンライン、半分オフラインということも形態を変えて2年続きました。授業のみならず行事という行事も中止、延期、規模縮小。それでも2年生の時には、縮小した明星祭、体育祭を楽しみました。そして、冬に延期した最初の校外学習が何とか出来たときは、うれしさよりも皆さんがそんな中でも成長し、学年とい

卒業生への
メッセージ
高校3年生へ

うコミュニケーションをしっかりと形成してくれたことに感謝でした。

「SDGs」「探究学習」という時代の風を受け「コロナ禍」でも個性という「帆」を掲げ、この3年間で突き進んだ皆さん。高校野球優勝監督の名言「青春は密」。この言葉を地でやった自慢の卒業生です。二百九十名全員の人生に幸多からんことを切に祈っています。卒業おめでとうございます。

明星での三年間を支えに

高校三年 MGS主任 別府 和哉

「安心・安全」とか「協調・共有」とかいった価値観は社会で既に広く行きたつているようです。もちろんそれらは大事なことです。一方で、その反対も同じくらい大事ではないでしょうか。コロナ禍や受験を通して皆さんそれぞれに「不安」や「孤独」を味わったことと思います。でもそれらも重要な、意味のある経験なのです。

これから先、選択・行動の結果は自分で受け止めなければなりません。正解がわからず不安でも、自分一人でも、真正面から向き合って自らの責任でしなければいけない決断というものが出てきます。社会の中で、また自分の中で、イノベーション

を起こそうと思うなら、自分以外の誰かに流される、誰かと同じでないと落ち着かないというのでは困ります。進路でも仕事でも、自分の人生を切実に生きていこうと思つたら、「ちゃんと孤独であれ」「正しく不安であれ」ということです。

でも、そのためには支えとなるものがが必要です。保護者に支えられ、先生方、友人たちと過ごしてきた明星高校でのこの三年間の学びが、皆さんのこれからの人生で支柱となることを願っています。卒業おめでとうございます。

明るい未来へ

高校三年一組 担任 有賀 郁夫

卒業おめでとうございます。皆さんの実現したい未来像の話聞いてみると、「社会で役立つ人材になりたい」「人の為に役立ちたい」という気持ちに溢れていました。いつかその思いが実現できるよう大学でさらに磨きをかけて下さい。そんな皆さんが社会に飛び立てばきっと未来は明るくなります。これからの時代を担っていく皆さんが、次のステージで大きく飛び立っていくことを楽しみにしています。

素敵な大人へ

高校三年二組 担任 真島由起子

卒業おめでとう！コロナウイルスの影響を大きく受けた3年間でしたが、皆さんと過ごした日々は宝物です。これから先出会う悩み・問題には1つの明確な答えはあるわけではなく、細かい場合分けされた答えや解なしであることがほとんどです。

ただし、そこに自分なりの解を見つけていることが一番大切だと私は思います。それを繰り返すことで、みんなの人間性が、品格が磨かれていくのだと思います。学問で培った「考える力」を発揮し、困っている人がいたら迷わず手を差し伸べられる、そんな素敵な大人になってください。

今を全力で

高校三年三組 担任 山崎 仁博

過去の経験があるから私たちは未来に向かって歩んでいくことができます。みなさんが「過去」を考え、頑張り、決断したことが「今」の自分を作っています。そして、この先の「未来」を考える指標になっています。だからこそ「今」に全力に取り組んでください。全力で取り組むからこそ、できることが増え、他

の人の大変さがわかり、優しい人になつていくことができます。この先のみなさんの「未来」を楽しみにしています。

「ご卒業おめでとうございます」

次のステージへ

高校三年四組 担任 **栗山めぐみ**

卒業、おめでとうございます。みなさんの入学と一緒に私も明星高校に入り、あつという間の3年間でした。こうして3年間、みなさんと関わったことをとてもうれしく思います。みなさんは、この3年間でどんなことを経験しましたか。よかったことも悪かったことも、経験したひとつひとつ、すべてがみなさんの財産です。そこから考え、学び、次のステージへと進みましょう。みなさんの新たなステージでの活躍を期待しています。

感謝と謙虚さが道を開く

高校三年五組 担任 **川辺**

登山家の栗城史多氏が単独・無酸素で高山に挑む映像を目の当たりにした際、驚いたことがあります。

それは、栗城氏が「ありがとう」「何て素敵な経験をさせてもらっているんだ」と大声で叫びながら登山

をしていたことです。栗城氏は「この苦しみは自分の友達だと思い始めると身体が楽になる」と言っていました。

「生かされている」という謙虚さ

と、常に感謝の気持ちを忘れずに人生を謳歌してください。

「ご卒業おめでとうございます」

知行合一

高校三年六組 担任 **上野 恵里**

徳富蘆花は、大逆事件で幸徳秋水が冤罪で処刑された直後の学生たちへの講演で「自ら謀叛人になることを恐れてはならぬ。新しいものは常に謀叛である。」と説き、深い感銘を与えました。皆さんは未曾有のコロナ禍で今までの世界が一変するのを目の当たりにし、図らずも新しい価値観に触れることになりましたが、これからは皆さんが創り上げていく時代です。周囲の意見に耳を傾けながらも自ら考え、世界を拡げて下さい。そのための手段が「学び」です。これからの皆さんの活躍を楽しみにしています。

心

高校三年七組 担任 **比留間由美子**

禅の世界では「この世の全ては、

私の心の働きである。心が全てを作り出している。」と説いています。だからこそ自分の心の持ち方がいかに大切か。これからの人生には嬉しい、楽しい事ばかりでなく、辛い、悲しい、悔しいなど色々なことが起きます。そのとき、そのとき、それらをありのまま受け止めて、穏やかに生きて下さい。柔軟な心を持つて

しなやかに対応して下さい。自分の心の持ち方で世界は違って見え、人生を変えることができます。

皆さんの活躍を心から応援しています。

枯渇感

高校三年八組 担任 **武山 新也**

ある技術や知識を究めた人がM/Cが知らない世界を紹介する某テレビ番組を見ていて、はっと気づくことがあります。人が道を究める原動力は「枯渇感」なのだと思います。

自分の環境や気持ちが満たされていない状態でもがき、苦しみ、その過程の中で爆発的に成長するのです。

お金がない中で無理して買ったギター、情報がない中で練習方法を模索した経験など、どうしても現代の便利さと昔の不自由さのようなコンテクストで対比され(後者が美化され)

がちですが、不自由を感じながらも

歴史の一部

高校三年九組 担任 **八幡 幸司**

明星はまもなく一〇〇周年を迎えます。君たちもその歴史の一部です。この3年間世界は変わり続け、その変化に時には振り回されながらも皆さんは成長・変化し続けました。

歴史とは人の思い。君たちの思いがこの校舎やグラウンドに宿つています。

そして多くの人の思いが君たちへつながっていることを忘れずに。

君たちの卒業も私の人生の一部であり、そして私も君たちの人生の一部に関われたことを幸せに思います。卒業おめでとう。

温故知新

高校三年十一組 担任 **黒瀬 勝利**

アインシュタイン曰わく「偉大な精神(あるいはその持ち主たち)は、常に凡庸な人々からの反発にあつてきた。陳腐な先入観に盲目的に従うことを拒否し、勇気を持って正直に

ベストを尽くして努力を重ねた経験は、一生の宝になると思います。いつまでもその時の枯渇感を忘れずに、原点回帰して頑張ってくださいね。

自分の意見を表明する人のことを、凡人は、理解できない」と。単なる反発ではなく、正直さや勇気とともに偉大な精神をもって(時に陳腐な先入観を生じさせる)世の中の常識に対峙していけば、新たな道はいずれ開ける。大いに学び、学んだ自分を信じ、唯我独尊に陥ることなく世の中との対話を重んじながら、新しい時代を拓いていってください。卒業おめでとう。

精力善用

高校三年十二組 担任 下川 典史

皆さんの近くで3年間を見させてもらい、その成長には目を見張るものがありました。それぞれが悩みながらも逃げずに向き合い乗り越えようとする姿は輝いていました。これからはそれぞれが夢に向かって歩んでいきます。その道中にはいろいろな困難が待ち受けているでしょう。しかし、今の皆さんなら「大丈夫」と自信を持って言えます。もしも、夢への道中で迷ってしまったら、明星高校に来てください。今と変わらずに待っています。卒業、おめでとう。

強くしなやかに

高校三年十三組 担任 桃井 洋子

ご卒業おめでとうございます。これまで経験した楽しいこと、嬉しいこと、嫌なこと、悲しいこと、辛いこと、それらすべて、あなたを造ったものであり、あなたの一部であり、あなたの宝物です。

そしてこれからも多くの人との出会いや新たな出来事があなたを創っていきます。どんな事も明るく冷静に受け止め、ありのままの自分で、強くなやかに前へと進んでいってください。3年間ありがとうございました。

出会いを大切に

高校三年 学年担任 池戸 夏美

ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした2年間は、充実した楽しい時間でした。ありがとうございます。皆さんはこれまで多くの人と出会い、これからより多くの人と出会うことになります。育てくれた保護者の方やそばにいてくれた友人に支えられ、今の自分があることを忘れないでください。そして、これから始まる大学生活では様々な人に出会い、その生き方を学び、自分の人生を模索してほしいと思います。

す。更なる飛躍を期待しています！

ゼロからイチへ

高校三年 学年担任 及川 智洋

ご卒業おめでとうございます。教科担当として、みなさまと関わる機会が多く、色々なことを共に学べてよかったです。これからの将来でみんないろんな不安がつのるかもしれませんが、でも、自分で悪い方に結果を予想する前に、今できる自分のベストを尽くしてください。苦しいときは得意なことだけでいいから。勉強だったらペンを持って手を動かしましょう。行動さえすれば必ず何か良いことがおこるはずですよ。

ピンチはチャンス

高校三年 学年担任 齊藤 文彦

卒業おめでとう。これから皆さんは、「明星」という居心地の良い家から、大学・社会という外の厳しい世界へ出ていくことになります。きっと、うまくいかないこと、辛いことに直面することになるでしょう。そのときは次のイチローさんの言葉を思い出してください。『壁というのは、できる人にしかやっこない。越えられる可能性がある人にしかやっこない。だから、壁がある時は

チャンスだと思いうことにしている』

高校三年 学年担任 辻 裕二

卒業おめでとうございます。私はこの3年間副担任としてこの学年で務めてきました。担任の先生の不在時の朝礼、終礼、HRなどいわばサブといえます。でも当然それなりに役割はあり副担任がいるからうまく回るといことも多々あります。もちろん担任の先生方には及びませんが、みなさんも今後いろいろな役割を与えられていくのだと思います。が、どのような境遇でもどうかプライドを持って果たしていって下さい。映画だって主演俳優だけで作られてるわけではありません。ではお元気で。

なりたい自分へ

高校三年 学年担任 中島 孝洋

高校を卒業する諸君の現在があるのはご家族や先生方、友人知人の支えがあつてこそです。その支えあつての自分自身の努力の成果ということとは疑いのない事実です。諸々含めて現在は過去の結果と言います。ということとは諸君の輝かしい未来は今の現在の蓄積ということになるのでし

よう。将来、「幸せになりたい」「豊かな生活を送りたい」「人の役に立ちたい」など各々の夢や希望はすべて現在何をするかに起因するということになります。十年後、二十年後のなりたい自分を目指し、今できることを誠実にこなしていくならば必ずや意に合った自分が形作られていくのだと思います。

信念を持つこと

高校三年 学年担任 樋口康一郎

卒業おめでとうございます。これから社会に出て行くみんなには、高い志と強い信念を持つて欲しいと思っています。目先の利益や損得で考えるのではなく、目の前で困っている人を助けようと思い、実際に行動する信念の人であって欲しい。時には損をすることもある生き方かもしれないけれど、生きる意味はそこかしこ生まれません。死を前にして、嘘偽りなく心の底から後悔しないために、そんな風に生きて欲しいと切に願っています。

高校生活を糧に

高校三年 学年担任 山崎 優真

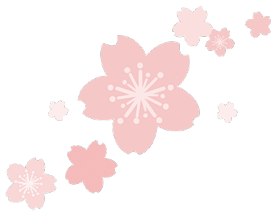
ご卒業おめでとうございます。皆さんの貴重な高校生活の一瞬に関わ

れたことをうれしく思います。高校生活は満足いくものになりましたか。高校生活で起きた全てのことは皆さんの血となり肉となり、今の君たちがいます。勉強や部活、体育祭や研修旅行などの行事、学校生活の何気ない会話、友達との遊び、どんな些細なことでもこれまでの経験が皆さんを助けてくれます。自信をもつて次へ進んでいってください。応援しています。

意志ある所に道は開ける

高校三年 学年担任 渡辺 裕

「思い」だけでは道は開けないかもしれないけれど、最低限、「思い」が無ければ道は開けない。「思い」を持ち続けられる生き方をしたいですね。卒業おめでとうございます！



「旬の思い出」

中高一貫1年3組 高島郁菜子

11月15日から17日にかけての3日間、私たち中高一貫1年生は栃木県の大田原市で民泊体験をしてきました。知らない土地で知らない人の家に泊まり新しい体験をする、正直、始まるまでは不安でした。民泊では農業体験をしました。私たちの班はほうれん草やいちごを栽培している農家さんのお宅にお邪魔しました。私たちが農業体験をさせて頂いた時期はほうれん草が旬だったので、ほうれん草の要らない葉をとったり、根を切ったりする作業をしました。最初は簡単そうに見えました。だけどやってみたら案外難しい！丁寧になると時間がかかってしまうし、早くやろうとすると茎が折れてしまうのです。普段何気なく食べていたけれど、ほうれん草って実は繊細な野菜なんだと、身に染みてわかりました。いちごは旬ではなかったのですが、残念ながら収穫作業はできなかったのですが、民泊先のお父さんが赤くなり始めた数少ないいちごを朝食の際に出してください、何と食べることができました。小さいのにもかかわらず、甘くてみずみずしくて、

とてもおいしかったです。ほうれん草もご飯の時にごま油あえて出してくださいだったので、いつも食べているものとは全然違って、旨味が詰まっている感じがして、とてもおいしかったです。

私はこの民泊を通して農業にとっても興味を持ちました。「旬」という言葉自体は聞いたことがあっても、普段の生活の中ではあまり意識することがありませんでした。でも今回、「旬」を実際に体験できました。今はスマホで何でも情報を手に入れますが、体験しないとわからないことがあるんだと実感しました。民泊をしたことで、多くの人に会うこともできました。これから果物や野菜などを買う際には、それぞれの店頭に並ぶまでの背景もよく考えながら、「旬はいつかな？ 大田原産かな？」と出会った人達のことを思い出しながら、おいしく頂きたいと思っています。

「健康の

タイムカプセル」

中高一貫1年1組 奥村 愛美

私たちは11月14日から17日の4日間、栃木県大田原で研修旅行を行いました。そこで私たち1組はバイオマスと有機栽培について学びました。

まずバイオマスでは二酸化炭素を地球に害の無いように使うという発想に驚きました。二酸化炭素といえど環境問題として真っ先に挙げられそうなものです。ところが、私たちが訪れた株式会社トーセンでは、エネルギーを作るために育てた樹木を燃焼する際に、その二酸化炭素を使って樹木を育てるそうです。今、世界では地球温暖化が問題となっており、明星中学校でもSDGなどの様々な活動を行っています。しかし、私たちが行っているのは二酸化炭素の排出量を減らす活動であり、排出した二酸化炭素を何かに使うというのは発想としてなかったで、貴重なことを教えていただきました。

2つ目の有機栽培・環境保全では、無農薬の安全さだけでなく、大切な考え方を学びました。私たちがお話を伺った古谷さんは実際に有機栽培を行っており、無農薬の野菜を食べた子供たちが風邪を引きにくくなったり、穏やかな性格の子が増えたりなど、無農薬野菜の意外な効果を教えて頂きました。また、古谷さんが目指している、「今だけ、自分たちだけではなく、100年先の子孫まで」という考え方がとても印象に残りました。今をよくしていけば、未来もまたよくなっていくのです。私は、自分たちだけでなく、自分た

ちの孫や、それより未来の子孫まで健康に生活できるように私たちから体にいいものを取り込んでいこうと思いました。

今回の研修旅行を通して私は自分たちだけでなく、未来のことも見通して行動することの大切さに気がつきました。自分たちのためだけに行動すると森林に住む動物達に被害が出て、巡り巡って私たちにも返ってきます。そこで自分のことだけでなく周りの人のことも考え、未来から逆算して行動すると、環境のことだけでなく、身近なことでも活かすことができます。そして一人一人がこうして行動し、全員で協力することで自分たちにとっても、自分たちの子孫にとっても、明るい未来を築いていきたい！それが未来への健康のタイムカプセルになると思いました。

「全国大会への決意」

中学女子テニス部主将
中高一貫2年1組 渡辺 紗礼

私達テニス部は、3月に香川で行われる全国選抜中学校テニス大会に出場します。

この大会に出るためには、関東大会で勝ち進まなければなりません。試合に出る選手は、応援して



くれている仲間の思いも背負って一球一球を大事に試合をしました。たとえ、ピンチの時でも応援してくれている仲間がいるから頑張れました。選抜が決まった時は、本当に嬉しかったです。しかし、今の現状では選抜で勝ち進めるほどの実力がありません。まだまだ練習が必要だと感じました。

この大会を通して、一年生には自分達で一生懸命準備してきて結果を出せた時の喜びを分かち合いたいです。二年は、今年の夏に最後の全中がかかっています。入学してから、自分の代で全国に行くことが一番の目標でした。それを叶えることが今まで支えてくださった方達への最大の恩返しになると思っています。なので、選抜を踏み台にしても夏の全中のために全力で戦い抜きます。

研修旅行に参加して

高校2年2組 永田 友恒



研修旅行で印象に残っているのは和歌山県での民泊だ。栗山さんという方の家に泊まった。お宅に到着してすぐ、とても美味しいちらし寿司と新鮮な野菜サラダ、鮎の塩焼きなどの昼食をいただき、その後、家業の体験をさせていただいた。紀州備長炭を2キロ、3キロに分けて箱に入れる。4人班だったので2人ずつになり、楽しく作業をした。私は3キロの方を担当し、2人で22箱くらいを詰めた。最近ではキャンプをする人が多く、この紀州備長炭はとても売れ行きが良いということだ。1時間ほどの中腰での作業だったが、結

研修旅行の思い出

高校2年3組 町田 さら

私が研修旅行で一番印象に残っていることは民泊での体験です。私た

構大変な仕事だと思った。貴重な経験をさせていただくことができた。

栗山さんは、一家の大黒柱という感じで威厳があった。夕飯の前に息子さんが帰宅し、東京に友人がいること、趣味の模型の話題などで盛り上がり、立体模型と一緒に作ったりした。夕飯では配膳の手伝いをしたが、栗山さんの奥さまはとても手際良く動いていて凄と思った。家族の方は皆とても優しく、私たちも楽しく過ごすことができた。またいつか、是非訪れたい。



ちは愛媛県の西予市で民泊体験をしました。民泊体験までは、どんなお家でどんな人なんだろうって内心ドキドキしている部分があったけど、実際に会ってみると本当に温かい人たちで、私たちが家族のように受け入れてくれて、とても嬉しかったです。

民泊先では、自家製の美味しいみかんジュースを飲み比べたり、みかんの箱詰めをしたり普段の仕事の手伝いをしました。また、岩場を登って海を見たり、山のてっぺんから街を見下ろしたり、普段東京で生活をしていれば、感じる事ができない貴重な体験ができました。

お世話になった家族の方と一日半とは思えないほど濃い時間を過



ごせて、お別れの時はとても名残惜しい気持ちでいっぱいでした。そのときに「またいつでもおいで」って言うてくださったことがとても嬉しくて、絶対また行こうと思いました。東京はどこに行っても人がたくさんいて、時間が忙しく動いてる感じがしますが、民泊体験は時間の流れがゆっくりに感じられました。本当にいい体験ができたし、多くの思い出をつくることができました。



「関東・全国大会に 向けて」

男子ハンドボール部主将
高校2年5組 坂本 幸哉

私たちは、全国ベスト8を目標に日々活動を行っています。今回の都大会では、チームの課題としていたパスワークや速攻を練習で改善できたことで優勝を成し遂げることができました。私たちがこのような結果を得られたのは、日ごろからサポートして下さっている保護者の方々や厳しく指導してくれる先生方、試合

期になると必ず駆けつけて下さるO Bの方々のおかげです。これからも私たちのために多くの方々をサポートしてくれていることを忘れずに今後も活動していきたいと思います。私たちは今後の関東大会、全国大会に出場している強豪校に打ち勝つパフォーマンスを発揮できるように新しい課題であるフィジカル強化と体力の向上していきたいと思っています。今大会での結果に満足せずチーム一丸となって関東、全国に向けて頑張りますので、応援よろしくお願ひ致します!!

高校 スキー部の活躍



高校スキー部は1月の全国関東大会東京都予選会を経て、1月23日よりスノーパーク尾瀬戸倉にて開催された「令和4年度第58回関東高等学校スキー大会」に出場し、野崎煌月君が見事2月山形県赤倉温泉スキー場で行われる全国大会の切符を手に入れました。

【全国大会出場権獲得】

野崎 煌月

【関東大会出場権獲得】

野崎 煌月 (高一)
山本 裕智 (高一)
奥仲 柊 (高三)

野崎 煌月君からの抱負です。

「インターハイには強い選手が出場しますが、良い成績を出せるように自信を持って頑張ります。今まで練習してきたことを生かして、最後まで諦めずにゴールしたいです」

関東スキー大会の記録

1/24大回転 (GS)

気温マイナス5℃、アイスバーンの好条件でのレース。野崎は1本目、顧問・原のセットで急斜面でも常に



体を動かし続け良い滑りをする。ゴール周辺の斜面変化でややミスがあったものの2位につける。

2本目、入念にインスベクション

(コース下見) をして1本目のミスの反省する。

1本目の上位者はスタート順が変わり野崎のスタート順は28番目。28番目はコースが荒れており、急斜面入口で体が大きく宙に浮いてしまう。失速したが、持ち前の柔らかい滑りでリズムを取り戻してゴール。トップとの差は2本の合計タイムで0・5秒。タイムを競う種目であるため、0・5秒というわずかに思える時間だが、その0・5秒がまだチャンピオンになれない壁であった。しかし、まだ1年生。今後に十分期待できる結果となる。おめでとう。

1/25回転 (SL)

気温マイナス20℃、10年に一度と言われる大寒波。雪の量は一晚で40cmほどで大したことないが、風が強く、まさにホワイトアウトする天候となる。本来は2本滑る競技だが、1本に変更。コース上に積もった雪をどかし、なんとかレースができる環境を関東の先生方で作る。しかし、コースは部分的には硬い水があるものの、大部分は柔らかい雪でスピードが出ない。



そのような中でも膝下を柔らかく動かし、体が遅れることなく果敢に攻める。順位は3位。

トップとの差1秒に10人が入る混戦となった。悪環境のレースでも3位という素晴らしい結果を残した。自分は果敢に攻めて結果を出せる。これを自信にしてほしい。

軽音楽部の活躍

高校3年4組 野口 華

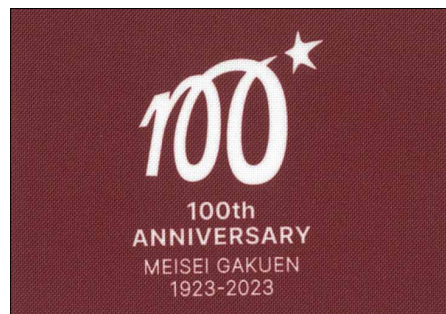


私たち軽音楽部は、三年間の高校生活の中で多くの大会で良い成績を残すことができました。ただ、一年生の頃は新型コロナウィルスの影響で大会は軒並み中止となり、部活動自体行うことが難しい状況でした。しかし、その期間も各自がしっかりと自主練習に励んだ結果、東京都高等学校文化連盟が主催する大会の厳しい予選を勝ち抜いて、三度も決勝



の場に進出することができました。また、東京都高等学校軽音楽コンテスト決勝大会にて準グランプリを受賞し、全国大会にまで進出することもできました。他にも、民間の主催する大会で大きく評価され、他校の軽音楽部との交流を活発にすることもできました。それぞれの部員が日々努力を惜しまず部の活動に大きく貢献してくれたからこそ、これだけの実績を残すことができたのだと思います。何より、部員同士の仲が良く部内の雰囲気良かったことが、軽音楽部の最も誇れるところです。高校生活の間で、このような素敵な経験ができたことを誇りに思います。

100周年エンブレムについて



明星学苑 100周年記念事業として、100周年エンブレムが制作されました。エンブレムに使われているロゴは創立 100 周年記念ロゴ公募で 146 件の応募の中から選ばれた、明星中高一貫 2 年生・森 雄之介さんの作品。「誰にでも伝わるデザインにしたい」という思いからシンプルさにこだわった本ロゴには、Meisei の「M」の形を意識した「100」の数字が描かれています。

このロゴを使用した記念エンブレムが現在部活動の公式戦ユニフォームやウェア等に使用されています。

100 年の歴史と伝統を胸に公式戦や発表に挑もう。そして自分たちも 100 年の伝統に刻まれるような成果を目指そう。というメッセージのもと各部活動で使用を開始しています。

下地の色によって白とエンジの二種類あり、女子ハンドボール部では濃色のユニホームにはエンジを、白色のユニホームには白をつけて戦っています。

今後このエンブレムと共に創立 100 周年の生徒の活躍を期待したいと思います。



女子ハンドボール部のユニフォームエンブレム